

国際空手道連盟一般社団法人極真会館愛媛県戸田道場 機関紙

極真への道



The way to Kyokushin

第10号
特別号

第6回愛媛県空手道選手権大会

第23回全日本少年少女空手道選手権大会
(グランドチャンピオン決定戦)

第3回ジュニア世界空手道選手権大会

第7回愛媛県戸田道場交流試合

山形国際セミナー・国際昇段審査体験記

令和元年度強化選手指定

強豪列伝

All Japan Kyokushin Union

2019.6 発行

世界に広がる極真空手

世界の強豪選手と戦える選手の育成を目指して

国際空手道連盟一般社団法人

極真会館 愛媛県戸田道場

代表師範 戸田美智男



平成31年3月22日から1週間、田畑師範と共にスリランカに指導に行っていました。

炎天下の厳しい中で指導をしましたが、空手の本場日本から指導者が来た、ということで想像以上の歓迎ぶりでセミナー終了後は一緒に写真を撮って欲しいと100人を超える道場生が並び、あたかもスターになったような気分でした。

また、昨年5月に参加した山形国際セミナーでは18カ国、101人の世界の仲間と共に本当に苦しい稽古を通じて沢山の友人ができました。

極真空手が世界に広がっていることを実感した2つの経験でした。

さらに、7月の「第3回ジュニア世界空手道選手権大会」が開催されたカザフスタンでは、松井弥陸選手が準優勝し、北彩花選手が第3位になり、我々戸田道場の選手が世界の強豪選手と互角以上に闘えることを証明してくれました。

そして、2年前に沖縄で開催された「第4回世界空手道選手権大会」に日本代表として出場した西条道場の志賀賢一先生と今治道場の神原敏行先生が初日を勝ち抜き、2日目に進出しベスト16となったことも大きな自信につながりました。

来年は海外で「第4回ジュニア世界空手道選手権大会」が開催予定ですし、先般の理事会でオーストラリアにおいて、今後小学1年生から出場できる国際ジュニア大会が開催されることが決定し、全日本少年少女空手道選手権大会（グランドチャンピオン決定戦）で優秀な成績を上げれば世界の舞台上で戦えるチャンスがまた増えたわけです。

我々の組織では全日本大会はもちろん、海外の大会に出場する選手にも大きな支援をしています。

この様に支援があることから、是非海外の舞台上で勝利するということを目標にして、稽古のモチベーションを上げて試合に臨んでもらいたいと思います。

大山倍達総裁は、世界各地に遠征して各国の強豪を相手に闘って勝利することによって、世界中に極真空手を普及されました。

その著書において「次代の日本を担う若者は、物質に比べて人間の精神力や想像力は、無限の力を秘めた財産であり、勇気と冒険心、そしてものの本質に苦行や修練をもって迫っていく態度を武器として世界に飛躍して欲しい。」と唱えられています。

是非とも、多くの道場生が世界を目指して雄飛することを期待しています。

第23回全日本少年少女

空手道選手権大会 (グランドチャンピオン決定戦)

松井弥陸 中学3年生男子軽量級準優勝

北光希 小学4年生男子準優勝

全国各地で開催される予選を勝ち抜いて、出場権を獲得した実力者だけが出場できるジュニア最強決定戦の元祖として知られる本大会は、平成30年6月23・24日に大阪府立体育館にて、500人を超える選手が集まり、館内は大勢の観客で満員に埋まり熱戦が繰り広げられた。

戸田道場からは一昨年の3人を超える9人が出場し、上位を目指したが松井瞳衣(小1今治)、岡裕人(小2本部)、山下凌(中2今治)、近藤さやの(中3本部)の4人は、残念ながら力及ばずに1回戦で敗退となった。また、高橋琉喜(小3今治)、菊川真莉沙(中2波方)は2回戦まで進むも判定負けとなった。

注目の北彩花(中1今治)は準決勝で優勝した富田藍海(新極真)に前年に続き判定負けとなりベスト8で終わり、一昨年の第3位の成績に及ばなかった。

中3男子軽量級に出場した松井弥陸(今治)は、圧倒的な攻撃力で1回戦は川村風生(極真横浜南台)、2回戦の眞鍋貫太郎(至道会)を本戦5-0の判定で勝利し、準決勝は菊谷海人(大心会館)を力強い攻撃で攻めて本戦5-0と圧倒的な力を見せて決勝に勝ち上がった。決勝戦は前回準決勝戦で敗れた南出和夫(関西総本部)との戦いとなり雪辱を期したが、鮮やかな上段の横蹴りや後ろ廻し蹴りを繰り出され、本戦5-0で判定負けとなり準優勝に終わった

しかし、前回の第3位の成績を超える殊勲をあげることができた。

小学4年生男子の部に出場した北光希(今治)は、1回戦は都築莉久(秀武館)に2回戦は藤原佑(元道会)に威力ある突きで圧倒し、いずれも本戦5-0で勝利し、3回戦の平尾貫生(成心會)に本戦3-0で判定勝利し、その勢いで準決勝戦の河野一心(勇輝会館)を本戦4-1で勝って決勝戦に駒を進めた。

しかし、決勝では音羽武蔵(白蓮会館)に突き、蹴り共に圧倒され、本戦0-5で判定負けとなったが、過去最高の成績である準優勝となった。

この様に、戸田道場は、ユース合宿などの選手強化策が功を奏し、過去最多となる準優勝者を2人輩出して次年に勢いをつなげた。

第34回ウェイト制全日本空手道選手権大会

神原敏行選手4位入賞



平成30年6月24日に、グラチャンと同じ会場で開催された大山倍達総裁時代から連綿として続けられている、一般部門階級別最強を決めるウェイト制。海外や他流派の強豪参戦もあって緊張感が漂う試合が多数を占めた。

戸田道場からは男女4人が出場し、男子重量級の櫻井隼斗選手(本部)は1回戦で浅田怜悟選手(志友会館)と対戦したが力及ばず本戦4-0の判定負けとなった。

また、体重を落とし中量級に出場した志賀賢一選手(西条)は1回戦シード、2回戦は勝ち上がってきた杉田祐輔(同志会)を正拳突きと下段廻し蹴り連打で圧倒し本戦5-0で圧勝した。

しかし、準々決勝で当たった大淵将也(極真関西総本部)の早い動きに勝機を見いだせず本戦0-5で判定負けとなりベスト8に終わった。

女子軽量級の國本明佳選手(今治)はウェイト制初の一般部出場で、1回戦シード、2回戦で準優勝の沖美怜(誠会)と対戦したが、相手の中段廻し蹴りに威力があり、本戦0-5で判定負けとなり更なる精進が期待される結果となった。

残る男子中量級出場の神原敏行選手(今治)は1回戦シード、2回戦は柄木田太陽(極真城西世田谷)と対戦し突き、蹴り共に的確に攻撃し本戦5-0で圧勝した。

3回戦は百瀬直紀(同志会)と当たり、本戦は百瀬の威力ある左下段廻し蹴りが神原の右大腿部を襲ったが、蹴ってくる足を何度か膝を当てて躊躇させ0-2で引き分けとした。

延長はやや神原が優位であったが1-0と引き分けとなり再延長に突入し、神原は満を持してラッシュを掛け5-0と圧勝し、ついに初めてのベスト4以上を獲得した。

しかし、準決勝戦の下川哲槻(晃哲会)の執拗な攻撃の前に本戦0-5で敗れ3位決定戦に回った。

3位決定戦は極真関西総本部の強豪、大淵将也と当たり、突きで先行する神原に対し大淵は中段膝蹴りや胸突き、下段蹴りを多発し本戦0-5で敗れ第4位となった。

しかし、極真戸田道場ではウェイト制史上で最も上位の成績を獲得した。

神原選手は表彰後「戸田師範はじめ、多くの仲間たちの声援のお陰で頑張れました。」と入賞の喜びを語った。

第3回ジュニア世界空手道選手権大会

松井弥陸選手準優勝 北彩花選手 3位入賞

第3回ジュニア世界空手道選手権大会が、平成30年7月6日にカザフスタンのカラガンダで行われ、15か国166名が参加した。

日本からは21名（男子9部門11名・女子6部門10名）が挑み、極真会館戸田道場からは北彩花（女子12歳～13歳 40キロ以上）と松井弥陸選手（男子14歳～15歳 55キロ以下）の2人が出場した。

戸田師範と神原先生が引率と審判で同行し、関西国際空港で関西総本部の選手団と合流しカザフスタンに向けて旅立った。

韓国のインチョン空港で一泊し、翌日首都アスタナに到着し、更にバスで3時間かかる会場があるカラガンダに向かう長時間の旅で、食事を含めてコンディションの維持が課題であった。

会場のセリク・サピエフ・ボクシングセンターはテロ防止のために、入場する者の所持品を全て出して検査の必要があり、軍人の姿も多く、日本とは違う緊張した雰囲気、日本選手団は戸惑いながらアップ会場で事前に汗を流した。

華やかな開会式の後、試合が始まったが地元カザフスタンやロシアの声援が笛、手拍子、大歓声で審判の声やホイッスルの音が聞こえない程の異様な雰囲気の中での戦いであった。

北彩花選手は突きと蹴りが冴えて1、2回戦を危なげなく勝ち上がり、準決勝でカザフスタンの選手と当たり、延長2回を闘うも体重判定で敗れ3位となった。

松井弥陸選手は決勝までの3試合を圧倒する戦いで勝利を得たが、決勝のカザフスタンの選手の変則の上段廻し蹴りが技有りを取られ、判定負けとなり準優勝となった。

日本選手団は金7個、銀6個、銅3個と2位のカザフスタン、3位のロシアを圧倒して総合成績でも優勝した。

これも団長の田畑師範のもとで一致団結して闘った結果であり、日本の空手の強さを世界に示すことができた。

北彩花選手と松井弥陸選手は、戸田師範と神原先生が審判の為にセコンドに就けない孤独な状況の中、入賞したことは称賛に値するものであろう。



第49回全日本空手道選手権大会

KYOKUSHIN KARATE

國本明佳選手惜しくもベスト8

第49回オープントーナメント全日本空手道選手権大会は、平成30年9月30日に駒沢オリンピック公園・総合運動場内体育館で開催された。

戸田道場では、例年出場している志賀賢一選手が10月8日に開催予定の第6回愛媛県大会に集中するために欠場となり、女子無差別に國本明佳選手（今治）のみの出場となった。

國本は1回戦、丹野珠伽（極真手塚派）との戦い、お互いが手数や上段廻し蹴りが多く、丹野の切れのある上段前蹴りをかわして反撃する國本選手がやや有利ながら本戦は2-0と引き分けとなる。

延長でも両者の動きは激しいが、中盤から國本の胸パンチが有効に入り、丹野選手は動きが止まり5-0で圧勝する。

2回戦は強豪選手、福德結実（極真東京紅衛会）と当たり、本戦は互いに激しい攻防を繰り広げ、國本は正拳が顔面に入り注意1となるも2-1で引き分け延長となる。

延長戦は技有とはならなかったが、國本の上段廻し蹴りがかするなど有利と思われたが判定は0-3と福德に上がり、後一步でベスト4に届かなかった。

他の試合はフルコンタクトカラテ誌上で戸田師範が報告した通りである。





第6回オープントーナメント

愛媛県空手道選手権大会

神原敏行選手執念の初優勝

6回目を迎えた極真会館愛媛県戸田道場主催の愛媛県大会。平成30年10月8日に日本武道館にも劣らない威容を誇る愛媛県武道館主道場で開催された。

各県の一般社団法人極真会館を初め、新極真三好道場、正道会館四国本部、白蓮会館など26クラス32流派約300人の精鋭が遠く九州、関西から終結した。

幼年、小中高校生の部門の優勝者、準優勝者は来年6月に開催される「第24回全日本少年少女空手道選手権大会グランドチャンピオン決定戦」の出場権が与えられる権利取得大会になっている。

中軽量級の優勝者候補は、国際如水会館の原田一晟。平成30年9月に開催された正道会館の第37回全日本大会軽量級でかかと落としなど4連続一本勝ちにより初優勝している。その原田は2回戦で直野天佑（愛媛・極真戸田）にかかと落とし、上段廻し蹴りを存分に駆使して5-0で圧勝。しかし準優勝で昨年準優勝の神原敏行（愛媛・極真戸田）に対し、本戦こそ1-0でやや優位に闘ったが、延長戦では神原が威力ある正拳突きや肘打ち連打が胸元にヒットし、5-0で判定負け（第3位）。

決勝戦は昨年と同じ、神原敏行と福田高広（愛媛・福田道場）。

福田は準決勝で（一社）極真会館のワールドカップ軽量級準優勝者の筒井雄基（宮崎・極真山下）との延長戦の戦いを制し勝ち上がってきた。

本戦は0-0と引き分け。延長戦は福田が前の試合で足の指を裂傷していた傷口から血がおびただしく流れ、医師の治療後再開し、2-0で神原が優位ながら引き分け。再延長戦では神原が執念の胸元への突きを繰り返し、5-0で念願の初優勝を成し遂げた。

一般男子重量級の準決勝1試合目は100キロを越す巨漢、酒井瑞樹（高知・新極真三好）と櫻井隼斗（愛媛・極真戸田）が対戦。酒井に旗二本上がるが引き分けとなり、延長で櫻井が失速し、4-0で酒井が決勝に駒を進めた。

準決勝2試合目は第5回準優勝の志賀賢一（愛媛・極真戸田）が長穂斗志英（愛媛・錬真館）を手数で圧倒し、旗判定5-0。

酒井と志賀両雄の決勝は、酒井の威力ある突きや時折出す上段廻し蹴りが有効で本戦4-0で初優勝となった。神原、酒井共にテレビインタビューで師範、先輩そして道場の仲間に対する感謝を伝えて喜びに浸った。

第6回オープントーナメント愛媛県空手道選手権大会結果一覧

	優勝		準優勝		3位		3位	
幼年（年長）	今西應介	極真関西総本部	芥川圓	極真愛媛	佐々木凜	極真宮崎	村上大虎	秋山道場
小学1年女子	蒲生七美	極真香川						
小学1年男子	村川旭	極真宮崎	関岡湊斗	悠心道場	佐藤大緒	極真愛媛	小倉将人	日本如水
小学2年女子	石岡優音	志成館	結城里奈	極真広島	宮内桜那花	志成館	黒田さくら	極真愛媛
小学2年男子	横井鉄生	拳剛会館	武智貴人	道真会館	野本旺真	道真会館	岡裕人	極真愛媛
小学3年女子	長尾眺里	白蓮会館	岡本智瑛	正道会館	小嶺柚季	志成館	神原杏菜	極真愛媛
小学3年男子初級	富田空琉	新極真三好道場	楠目爽介	新極真三好道場	池内琥星	極真愛媛	濱田旺佑	悠心道場
小学3年男子上級	野本生真	道真会館	野坂蓮真	白蓮会館	佐藤竜大	極真関西総本部	高橋琉喜	極真愛媛
小学4年女子	小倉美月	日本如水	小川颯菜	志成館				
小学4年男子初級	山下蒼生	新極真三好道場	黒光友樹	拳武道会館	伊藤銀河	極真愛媛	東優伸	極真愛媛
小学4年男子上級	北光希	極真愛媛	高岡日向	悠心道場	林奎汰	極真関西総本部	福岡陽澄	極真愛媛
小学5年女子	村角松奈	白蓮会館	高橋きら莉	極真香川	横原茉日琉	新極真三好道場	石岡莉星	志成館
小学5年男子初級	小澤叶夢	極真愛媛	黒田憲太郎	極真愛媛	鷺宥介	極真愛媛	島津晃太郎	拳武道会館
小学5年男子上級	村川明	極真宮崎	森翔哉	新極真三好道場	楠目桃大	新極真三好道場	渡辺圭翔	福田道場
小学6年女子	森涼葉	新極真三好道場	佐伯姫夏	国際如水				
小学6年男子上級	東虎之介	極真宮崎	仲海信	白蓮会館	深川雄清	空拳道忍会館	中田陸斗	白蓮会館
中学生女子	菊川真莉紗	極真愛媛	近藤さやの	極真愛媛	高橋和莉	極真香川	北彩花	極真愛媛
中学生男子軽量級	猿川拓夢	志成館	竹本悠晏	空拳道忍会館	楠目海弥	新極真三好道場	川島一真	新極真三好道場
中学生男子重量級	三上汰明	新極真三好道場	松井弥陸	極真愛媛	枅鏡元	新極真三好道場	山下凌	極真愛媛
高校生男子軽量級	山中堅太	新極真三好道場						
高校生男子重量級	青山虎之介	福田道場	門田将弥	志琉会				
一般男子初級	白石将博	極真愛媛	辻田道晴	極真愛媛				
壮年	東坂謙次郎	極真長谷場派	森岡正知	無双塾	丹下英人	極真愛媛	羽根有二	極真関西総本部
高校生以上女子	森岡未来	新極真三好道場						
一般男子上級軽中量級	神原敏行	極真愛媛	福田高広	福田道場	原田一晟	国際如水	筒井雄基	極真宮崎
一般男子上級重量級	酒井瑞樹	新極真三好道場	志賀賢一	極真愛媛				



第7回 愛媛県戸田道場 観戦記

KYOKUSHIN 部内交流試合

新居浜上部道場 責任者(師範代) 濱井敦史

第7回を迎えた部内交流試合は、今年から大きく変貌いたしました。特筆すべきは「組手団体戦」の導入です。過去に大洲少年空手道大会で行っていましたが、ここ最近ほどの大会も個人戦に特化し、団体で勝敗を決する試合は皆無でした。戸田道場自体、傘下加盟道場も増え、各々の道場生も育ち、道場対抗戦をしてはという声が上がっておりました。

今回初導入した「組手団体戦」は小学生低学年と高学年の2クラスに分け、それぞれそれぞれのチームは選抜された3名で行いました。当該学年に選手がいない場合1学年下の者が上のクラスに出場できるというルールを設け、また組手個人戦には出場できない「強化選手」の出場も団体戦に限り認めました。これにより多くの道場からチーム編成することができトーナメントを組むことが可能となりました。

試合は各道場生が一丸となって声援を送る熱気にあふれ、大いに盛り上がりました。道場生間の絆も深まり、自分の試合だけでなく、他人の試合にも応援に駆け付けられる良い習慣ができたと思います。また個人戦前に団体戦を経験し観戦することにより、緊張感がほぐれ、型や組手個人戦で力を発揮しやすくなったのではないのでしょうか。

団体戦後の型試合に関しては、どのクラスも昨年よりかなりレベルアップしていると感じました。特に低学年の出場者が多く、レベルも高く感心しました。各道場で型の稽古に時間を割いてきたことが伺えます。今年から新たに型の「強化選手」制度もでき、幅広く稽古に力が入るのではないのでしょうか。

組手個人戦は強化選手が出場しない分、どの選手にも入賞の可能性が高くなっています。強化選手と遜色ない力を持っている選手もたくさん目につきました。そして各選手が組手試合におけるルールをしっかり把握し、戦い方も洗練されてきたように感じます。

部内交流試合を開催する大きな目的は戸田道場全体の底上げです。これは選手の力量に関してのみ申すのではなく、審判の質向上、スタッフの協力推進、そして運営面での改善等すべてにおいての底上げです。私も今回初めて主管運営に携わり、小さな大会でも開催することの大変さを身に染みて感じました。今大会開催に当たりたくさんの助言や指導をしてくださった戸田師範はじめ、ともに運営に携わった東予地区道場責任者の皆様、審判、スタッフで協力して下さった先生、先輩、道場生、保護者様、そして選手諸君有難うございました。今後ますます皆様とともに良い大会に育てていきたいと思っております。ご協力よろしくお願い申し上げます。押忍。



第7回極真会館愛媛県戸田道場交流試合結果一覧

部門	優勝	準優勝	3位	3位	ベスト8
組手団体戦	道場名	道場名	道場名	道場名	
組手団体戦低学年	西条道場	味酒道場A	本部道場B	三津道場	
組手団体戦高学年	今治道場B	本部道場B			

型の部	氏名	道場名	氏名	道場名	氏名	道場名	氏名	道場名	氏名(道場名)
幼年	宮崎悠一郎	本部							
小学生低学年初級	芳野怜穂	三津	寒作心	本部	神原杏奈	今治	田村英誉	味酒	奥村悠央(味酒) 土井凌太(味酒) 渡部悠馬(本部) 井口尊心(三津)
小学生低学年上級	瀧田蓮	川東	村上颯	空港通	池内琥星	味酒	仙波優佳	本部	
小学生高学年初級	東悠樹	本部	西村健吾	味酒	村上咲弥	空港通	大森夢叶	空港通	
小学生高学年上級	寒作円	本部	伊東千晃	味酒	真鍋瑛太	新居浜署	清水航一郎	本部	
中学生以上一般男子初級	松木洋三	上部							
中学生以上一般男子上級	福岡光大	本部	俊野彩樹	空港通	宮園圭人	本部	富岡優斗	本部	
中学生以上一般女子初級	徳弘明優	本部	宮崎小織	本部					
中学生以上一般女子上級	菊川真莉紗	今治							

組手の部								
幼年	宮崎悠一郎	本部						
小学1年生	高橋英徳	本部	玉井瑛人	上部	石川遥輝	上部	芳野翔琉	三津
小学2年生	岩城斗也	西条	戎居虎太郎	味酒	奥村悠央	味酒	熊野未来	上部
小学3年生	瀧田蓮	川東	久保智輝	大洲	高橋笑	上部	小松陽翔	味酒
小学4年生男子	中野結翔	空港通	寒作円	本部	林修作	本部	伊藤銀河	本部
小学4・5年生女子	瀧田凛	川東	辻田紗奈	川東				
小学5年生男子	小澤叶夢	西条	池田翔真	今治	黒田憲太郎	味酒	梶岡利玖	空港通
小学6年生女子	大野花菜	空港通						
小学6年生男子	高瀬快	西条	宇高悠斗	本部				
中学生男子	西村朔	大洲	高橋冬椰	上部				
中学生女子	水本凜	大洲						
高校生以上女子	宮崎小織	本部						
壮年	松木洋三	上部	一色充	空港通				
高校生以上一般男子初級	辻田道晴	川東	福田正人	上部				
高校生以上一般男子上級	村上哲也	県警	宮園圭人	本部				



第 21 回大洲少年空手道大会 観戦記並びに回顧録

愛媛県警極真空手道部 東 元

平成31年3月10日に、まだ寒さの残る早春の大洲の地において、国際空手道連盟一般社団法人極真会館愛媛県戸田道場の主催、愛媛県警察極真空手道部の運営により、青少年健全育成・ヤング3S運動・第21回大洲少年空手道大会が開催され、今年も組手の部と型の部を合わせてのべ600人以上が参加する県内最大規模の大会となりました。

今大会も入賞者は桜の代紋入りの入賞楯が授与されますが、頂点に立つためには実に5、6試合を勝ち抜かなければならないビッグトーナメントとなるカテゴリも存在し、入賞をめぐる激しい闘いが繰り広げられました。組手の部では、様々な流派の全国大会出場者が多数出場し、1試合勝つのも至難の業と認められる程レベルが高い部門も存在し、各流派の威信をかけた闘いの熱気に溢れた1日となりました。

愛媛県戸田道場戸田師範の情熱により第1回大会が開催されたのは、もう20年以上前になる平成10年3月15日の事であり、第1回大会は「青少年健全育成愛媛県少年空手交流大会」として、愛媛県内の小中学生104名の参加によって開催されたのです。

私は当時駆け出しの新任警察官であり、緊張の中大会の手伝いをしつつも、面前で繰り広げられる子ども達の空手に取り組む真摯な姿が記憶に残っています。この時まさかその後20年に渡って大会に関わり、特にここ数年は毎年自分の実子を連れて参加するようになるのは露とも思わず、21回目を迎え、ハイレベルな大会に成長した現在の状況を見るにつれ、感慨深さを禁じ得ませんでした。

当時の戸田大洲警察署少年空手教室責任者（戸田師範）の大会開催にあたっての言葉を再録させていただきますと、「私たちは、子供達が武道精神を色濃く残す極真空手を稽古することによって、健全な精神と肉体を鍛え非行とは無縁になると信じ、ここ大洲にて少年空手教室を開いております。今回この大会を開催し、多くの少年たちが参加して勝負の厳しさを知り、勝利を得ても逃がしても、今後より一層稽古に励み心身共に強くなり、また相手を思いやる心を養い健全に育っていくことを願っています。」というものになります。

大会参加者の技術的なレベルがいくら上がろうとも、本大会が20年以上の長きに渡って一つのブレもなく、現在も戸田師範の青少年への熱い思いの下で開催されている事を誇りに感じます。

青少年の健全育成を20年以上に渡って訴えてきたこの歴史ある大会から巣立ち、現在一般部の道場生として活躍している者、警察官を志し拝命後は現場で県民のために働いている者も数多くおり、私も今後とも愛媛県警察の一員として、青少年のために意義ある今大会を続けていくべく思いを強くし、今後も努力を欠かさないことを誓った次第であります。

第21回大洲少年空手道大会結果一覧

【型の部】

部門	優勝			準優勝			3位			3位		
	氏名	学校名	流派名	氏名	学校名	流派名	氏名	学校名	流派名	氏名	学校名	流派名
小学1年初級	阿部杏香	久枝小	極真戸田	佐藤大緒	多賀小	極真戸田	白石絢心	垣生小	道真会館	田中蓮大	味生第二	極真戸田
小学1年上級	糸目健真	河野小	悠心道場	関岡湊斗	生石小	悠心道場	高橋瑛徳	姫山小	極真戸田	安岡永悟	城辺小	月心塾
小学2年初級	結城里奈	郷原小	極真宗政	芳野怜穂	和気小	極真戸田	井口尊心	和気小	極真戸田	大澤里菜	久枝小	悠心道場
小学2年上級	岩城斗也	楠河小	極真戸田	山根有乃	住吉小	正道会館	高瀬壮	国安小	極真戸田	橘大凱	麻生小	道真会館
小学3年初級	清水ひより	大西小	日本如水	神原杏菜	吹揚小	極真戸田	表咲哉	久枝小	悠心道場	保岡心菜	一本松小	月心塾
小学3年上級	池内琥星	清水小	極真戸田	中本陽夏乃	下瀬小	吉村道場	村上駿	北吉井小	極真戸田	矢野友徠	岡田小	道真会館
小学4年初級	伊藤輝瑠	松前小	道真会館	大原空海	久枝小	悠心道場	西村健吾	味酒小	極真戸田	東悠樹	東雲小	極真戸田
小学4年上級	寒作円	清水小	極真戸田	飯田環茄	久米小	道真会館	福岡陽澄	たちばな小	極真戸田	真鍋瑛太	神郷小	極真戸田
小学5,6年初級	村上咲弥	北吉井小	極真戸田	宮野琉緯	鳥生小	極真戸田	梶岡利玖	たちばな小	極真戸田	渡辺るい	成妙小	青空会
小学5年上級	井口公瑛	郷田小	極真宗政	河村夏花	堀江小	悠心道場	横原茉日琉	中村南小	新極真会	桑原沙弥	長月小	月心塾
小学6年上級	岸田悠波	富田小	日本如水	新居田天翔	大西小	日本如水	二宮快地	高浜小	極真戸田	森涼葉	神田小	新極真会
中学初級	白石妃菜	川東中	極真戸田									
中学上級	菊川真莉紗	近見中	極真戸田	福岡洸大	愛大付属中	極真戸田	西岡虎太郎	宇和島南中	吉村道場	楠目海弥	城西中	新極真会

【組手の部】

部門	優勝			準優勝			3位			3位		
	氏名	学校名	流派名	氏名	学校名	流派名	氏名	学校名	流派名	氏名	学校名	流派名
小1初級	佐藤大緒	多賀小	極真戸田	谷口凜	中村南小	新極真会	松下環士	さくら小	極真戸田	小倉将人	和気小	日本如水
小1上級	藏本琉愛	玉津小	福田道場	糸目健真	河野小	悠心道場	瀬良翼	堀江小	悠心道場	伊藤莉空	多喜浜小	拳武道会館
小2初級	吉村雄心	金子小	拳剛会館	矢野凜斗	麻生小	日本如水	結城里奈	郷原小	極真宗政	松井瞳依	別宮小	極真戸田
小2上級	武智貫人	伊予小	道真会館	岡裕人	栗井小	極真戸田	岩城斗也	楠河小	極真戸田	大島崇汰	垣生小	道真会館
小3初級	三木琉誠	小野小	日本如水	佐中龍斗	生石小	悠心道場	清水ひより	大西小	日本如水	小松陽翔	清水小	極真戸田
小3上級	野本生真	荻原小	道真会館	西山歩輝	宇多津北小	極真桑島	高橋琉喜	常盤小	極真戸田	池内琥星	清水小	極真戸田
小4男子初級	東優伸	鳥生小	極真戸田	舩田絆一	味生第二小	悠心道場	末廣玲生	新玉小	極真戸田	穂木竜之介	高津小	極真戸田
小4男子上級	北光希	常盤小	極真戸田	高岡日向	味生小	悠心道場	福岡陽澄	たちばな小	極真戸田	山本陸	横浜小	新極真会
小4女子	小倉美月	和気小	日本如水	ホーランド唯マデリン	石井北小	新極真会						
小5男子初級	清水幸真	生石小	中元会館	宮野琉緯	鳥生小	極真戸田	鷲宥介	多賀小	極真戸田	高原吟丞	玉津小	拳武道会館
小5男子上級	越智龍	神郷小	極真戸田	森翔哉	神田小	新極真会	楠目桃大	旭東小	新極真会	田中遥真	木太南小	極真桑島
小5女子	三好あいり	石井北小	日本如水	横原茉日琉	中村南小	新極真会	山岡夢侖	具同小	新極真会	松田愛莉	大西小	日本如水
小6男子初級	大崎元	岡田小	道真会館	大宿貴弘	番城小	青空会						
小6男子上級	向井大陸	生石小	中元会館	山下駿	別宮小	極真戸田	高瀬快	国安小	極真戸田	西山隆賢	宇多津北小	極真桑島
小6女子	小倉花恋	和気小	日本如水	岸田悠波	富田小	日本如水	渡辺るい	成妙小	青空会	横山七海	双葉小	中元会館
中学男子軽量級	尾上仁勇	国分寺中	極真桑島	福岡洸大	愛大付属中	極真戸田	久保幸輝	長浜中	極真戸田	三澤一輝	内宮中	悠心道場
中学男子重量級	栢鏡元	内宮中	新極真会	宮内温汰	南第二中	道真会館	山下凌	日吉中	極真戸田	川島一真	三里中	新極真会
中学女子	渡部はるあ	北条北中	悠心道場	菊川真莉紗	近見中	極真戸田	山中咲和	朝倉中	新極真会	岡山愛佳	東中	新極真会



強豪 列伝

強豪列伝特別編

選手と指導者の両輪を行く男

神原敏行先生

昨年6月開催の「第34回ウェイト制全日本大会」で若手の選手を次々と撃破して第4位に入賞、その怒涛の勢いを10月に開催した「第6回愛媛県大会中量級」まで持続し、宿敵の福田高行選手を撃破、極真会館戸田道場、初の優勝を獲得した神原敏行先生。

年齢は30歳代後半を迎えたものの、ますますパワーアップしている。

神原先生は、高校時代には野球部に所属していたが、引退後に極真空手を始め、その後、世界チャンピオン兵庫県の中村誠道場で厳しい稽古を耐えて実力を向上させた。

今治に帰省後の27歳の時に今治道場の責任者に就任し、現在まで選手と指導者の二足の草鞋を歩んできた。

5年前に全国組織のトップによる不祥事が原因で、愛媛県内の極真会館が大きく分裂した時に熟考を重ね、我が極真会館愛媛県戸田道場に加盟して道場の命運を掛けたのであった。

その後は、破竹の勢いでグラチャン高校生チャンピオン 國本明佳、ジュニア世界大会準優勝 松井弥陸、同大会第3位 北彩花等々、強豪選手を次々と育成し戸田道場を愛媛から世界へ飛躍した道を開いてきた。

また、選手としても先の2大会以外、2年前の第4回世界大会でベスト16に入るなど実績を積んできた。

現在は、今治道場だけでなく戸田道場の監督として合同強化稽古やユース合宿で指導責任者をしており、組織全体の選手強化底上げに尽力を尽くしている。

彼の夢は「指導した選手が一人でも多く、世界の舞台で優秀な成績を取ること。」とのこと。

今の勢いを見ると、夢が現実になる事も遠くないと思われる。



強豪 列伝

ふてぶてしいまでに強く
クールな小学5年生

北光希選手

北光希選手は、昨年来、大洲少年大会、香川県大会、愛媛県大会を初め主要な大会に優勝し敗れるのを見ることは珍しい状況であった。

どっしりとした構えから、繰り出す力強い突き技は数々の他流派の強豪と呼ばれる選手達を圧倒し勝利を重ねてきた。

そして、ついに昨年の第23回少年少女大会（グランドチャンピオン大会）において準優勝し、全国レベルでその名前を響かせるまでになった。

しかし、今では強豪と呼ばれるまでになったが、つい2年近く前までは頂点に達することなく序盤で敗れることも多い状況であった。

それを克服したのは、ジュニア世界大会で第3位に入賞した実姉の北彩花（中学2年生）の空手に対する姿を見たことがきっかけであった。

姉の彩花は、道場稽古はもちろん自宅でも稽古を怠らず、その上で父親が撮影した他流派のライバル選手の動きを見て常に研究をしていた。

光希選手はあるレベル以上から勝てなかった自分を見つめ直し、姉の姿に感化され自宅での稽古にそれ以上に力を入れ、ついに常勝の自分に姿を変えたのであった。

心が技の弱さを克服した瞬間であった。

彼の希望は、姉のように世界レベルの大会で入賞することであり、今の彼の力から言えば充分可能であろう。

近い将来、世界で活躍する姿を見るのが楽しみである。





北光希 (小学5年生男子)

今年こそはライバルに勝って、優勝トロフィーを持って帰ります。

第24回全日本少年少女空手道選手権大会

《オープントーナメントグランドチャンピオン決定戦》



岡裕人 (小学3年生男子)

一回勝つことがとても難しいのですが、目指すのは優勝です。最後まで諦めずに頑張ります。



高橋琉喜 (小学4年生男子)

去年は1回戦で負けてしまったので、今年は1回でも勝てるように頑張ります。

出場者の決意



芥川團 (小学1年生男子)

グラチャンははじめてだけどうしょうできるようにがんばります。



菊川真莉紗 (中学生女子)

最後まで全力で戦い、限界を突破し優勝を目指します。



近藤さやの (高校生女子)

指導してくださった先生方やいつも支えてくれた両親に感謝して戦います。優勝したいと思います。



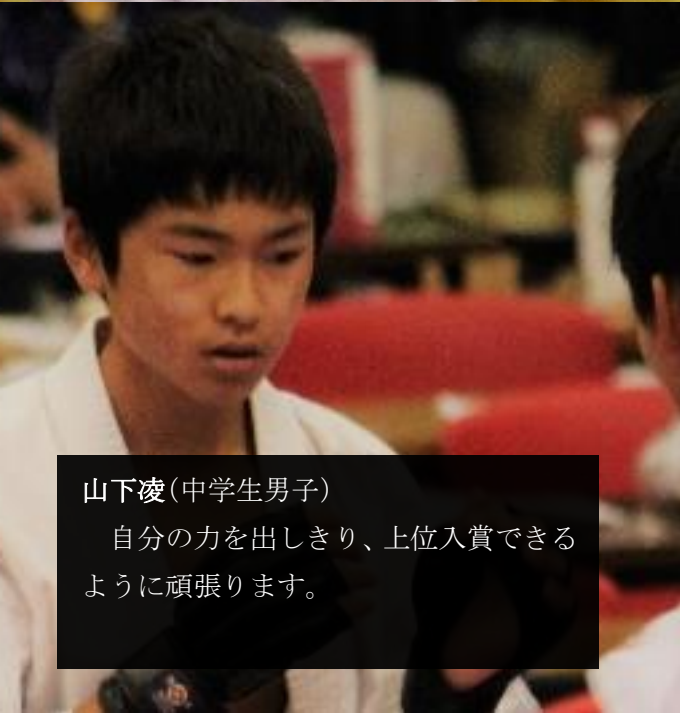
福岡陽澄 (小学5年生男子)

練習した成果を発揮し、少しでも多く勝てるようにがんばります。



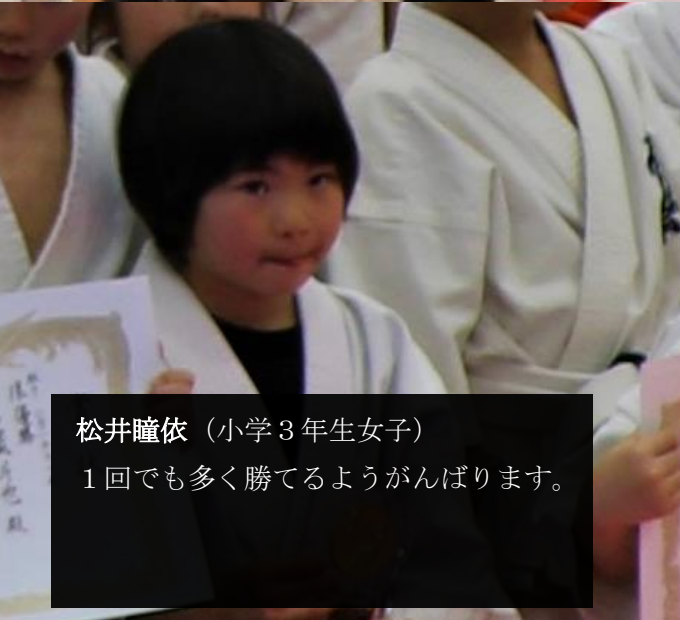
北彩花 (中学生女子)

チャンピオンを倒すという気持ちで頑張ります。



山下凌 (中学生男子)

自分の力を出しきり、上位入賞できるように頑張ります。



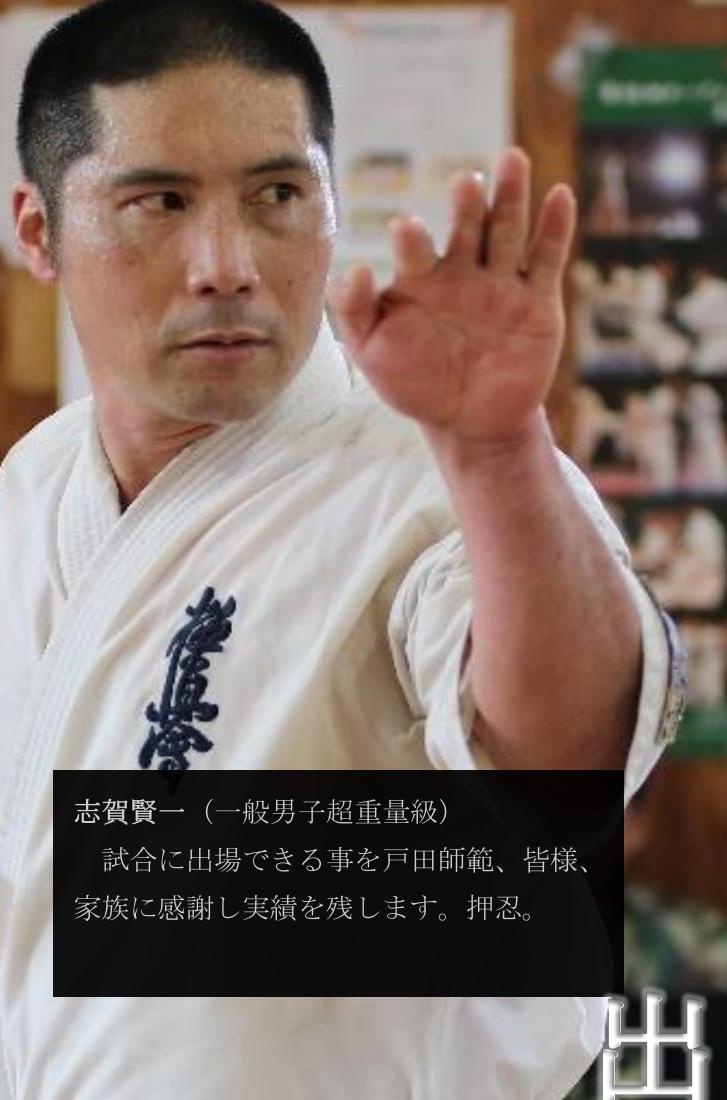
松井瞳依 (小学3年生女子)

1回でも多く勝てるようがんばります。



松井弥陸 (高校生男子)

またジュニア世界大会の出場権を獲得するように頑張ります。



志賀賢一（一般男子超重量級）

試合に出場できる事を戸田師範、皆様、家族に感謝し実績を残します。押忍。



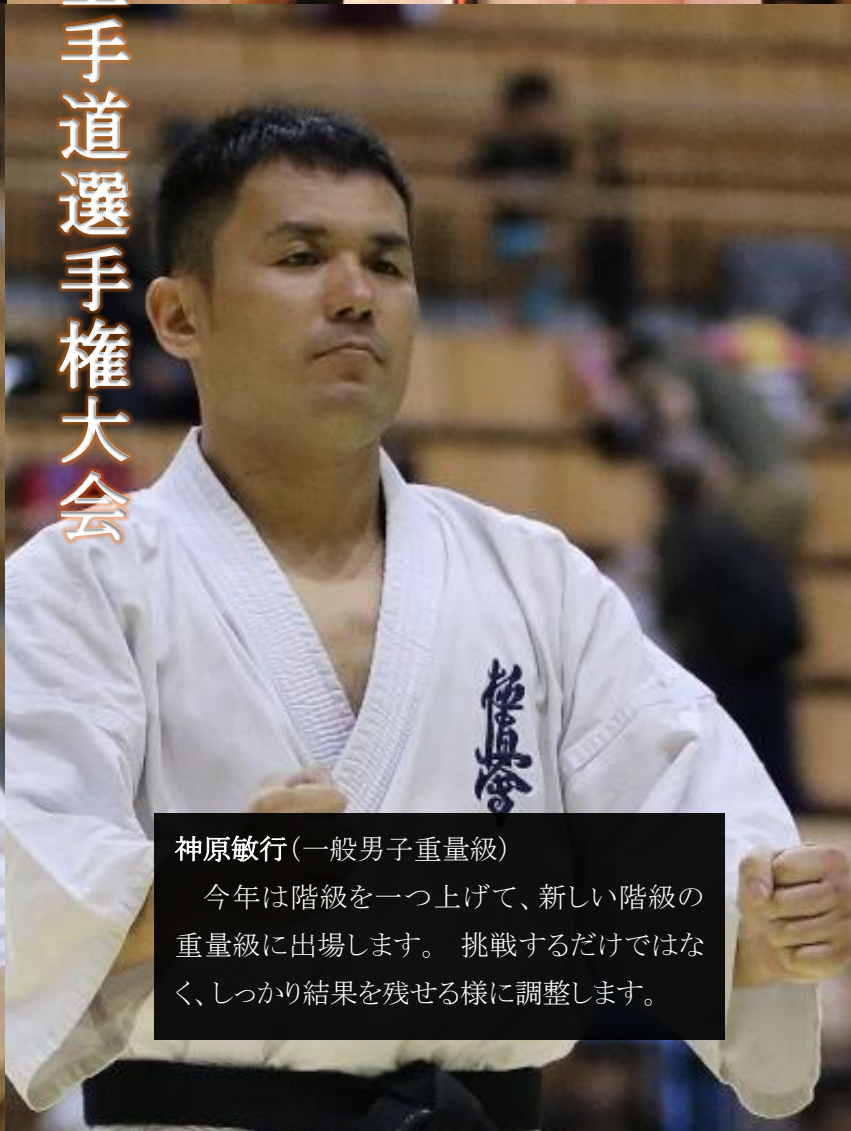
國本晴佳（一般女子軽量級）

気持ちで絶対に負けず、今までよりも成長した戦いで優勝、ワールドカップ出場権を獲りに行きます。



曾我郁弥（一般男子軽量級）

今までの稽古で培ってきたものを十分に発揮し、全身全霊で一戦一戦、戦っていききたいと思います。



神原敏行（一般男子重量級）

今年は階級を一つ上げて、新しい階級の重量級に出場します。挑戦するだけでなく、しっかり結果を残せる様に調整します。

第35回全日本ウエイト制空手道選手権大会

出場者の決意

昇級審査合格者

昇級審査には平成30年6月17日は60人、平成30年11月11日は63人、平成31年3月17日は68人が受審しました。

【平成30年6月17日】砥部町ゆとり公園武道場

少年部

- ◆2級 真鍋武琉(新居浜警)、富岡優斗(本部)、西村朔(大洲)
- ◆4級 真鍋瑛太・越智龍(新居浜警)、林修作(本部)、中野結翔(空港)
- ◆5級 清水航一郎・伊藤銀河(本部)、菊池涼粋(大洲)
- ◆6級 瀧田凜(川東)、東優伸(今治)、瀧田蓮(川東)
- ◆7級 高瀬壮(西条)、仙波優佳・岡裕人(本部)、戎居虎太郎(味酒)、梶岡利玖(空港)
- ◆8級 川上颯太(川東)、熊野未来・福田心優(上部)、石井彰(今治)、高橋英徳・寒作心・高橋蒼大・近藤瑛斗(本部)
- ◆10級 玉井瑛人(上部)、芥川團(西条)、宮野流空(今治)、高橋愛葵(本部)、岡田拓真(空港)、芳野翔琉・阿部杏香(三津)

一般部

- ◆3級 高橋冬椰・高橋みのり(上部)、右近勝夫・濱田晋太郎(本部)
- ◆4級 村上哲也(県警)、俊野彩樹(空港)
- ◆6級 荒牧基尚(空港)
- ◆7級 白鞘未羽(川東)、中平健(上部)、徳弘明優(本部)



【平成30年11月11日】砥部町ゆとり公園武道場

少年部

- ◆2級 二宮快地(本部)
- ◆3級 宇高悠斗(本部)
- ◆4級 小澤叶夢(西条)、北光希(今治)、池内琥星・黒田憲太郎(味酒)、水本和希(大洲)
- ◆5級 高橋琉喜(今治)
- ◆6級 白石悠翔(川東)、佐々木瑛太(新居浜警)、大森夢叶・村上咲弥(空港)
- ◆7級 辻田紗奈(川東)、宮野琉緯(今治)、村上晴紀・村上一琉・カノイメシヤク(本部)、小松陽翔・竹内佑生・勝田歩葉(味酒)、大森陽智・上田悠晴・村上驍(空港)
- ◆8級 村上彪・重松陸人(今治)、宮本武弦・渡部悠馬・ハダサローズマリー(本部)、勝田瑛斗・奥村悠央・政岡魁人(味酒)、井口尊心・芳野怜穂(三津)
- ◆9級 近藤裕介・岡部日向莉・穂木竜之介(川東)、高橋笑(上部)、檜垣颯太(今治)、宮崎悠一郎(本部)、二宮悠翔(三津)
- ◆10級 今津瑛貴・近藤駿(川東)、合田麗央(新居浜警)、伊藤陸・村上琉稀・アリブレット玲音・檜垣優太・安井大祐・今川遥斗(今治)、伊藤源二(本部)、竹田依緒莉(味酒)



一般部

- ◆1級 松井弥陸(今治)
- ◆2級 進藤大(上部)、北彩花(今治)
- ◆3級 新田恭一郎・伊藤友紀子(本部)
- ◆4級 白石将博(川東)
- ◆6級 白石妃菜(川東)
- ◆7級 辻田道晴(川東)、宮崎小織(本部)、村上敦(空港)
- ◆9級 辻田琉紀(川東)、水本凜(大洲)



【平成 31 年 3 月 17 日】砥部町ゆとり公園武道場

少年部

◆3 級 真鍋瑛太(新居浜警)、高橋葵唯(上部)、池田翔真(今治)

◆4 級 伊藤銀河・清水航一郎(本部)、大野花菜(空港)、菊池涼粋(大洲)

◆5 級 東悠樹(本部)

◆6 級 河端秀虎(川東)、岩城斗也・高瀬壮・鷲有介(西条)、宮野琉緯(今治)、カノイメシヤク・岡裕人(本部)

梶岡利玖・荒牧優翔(空港)

◆7 級 合田龍生(川東)、西村健吾・山内煌河(味酒)、白鞘翔盛(川東)、高橋蒼大(本部)、高橋笑(上部)

◆8 級 岡部日向莉・合田蒼甫(川東)、芥川團・佐藤大緒(西条)、宮野琉空(今治)、高橋愛葵・末廣鈴生(本部)、戸田悠仁・田中蓮大・松下環士・岡田拓真(空港)、阿部杏香・芳野翔琉(三津)

◆9 級 合田麗央(川東)、玉井瑛人・田邊秀磨・石川愛莉(上部)、末廣琉杏(本部)、ナエラナスルラ(味酒)

◆10 級 日野煌太(川東)、福田優真・福田ゆう・保子凜成・石川遥輝・松木蒼真(上部)、高橋大翔(本部)、ガジヤナスルラ・パンリマアブダン・ムハマドアリフ(味酒)、西村唄・水本宙希・矢野翔琉・立川湧空・濱田夏向・畠岡周作(大洲)

一般部

◆2 級 高橋みのり・高橋冬椰(上部)

◆3 級 村上哲也(県警)

◆5 級 荒牧基尚(空港) ◆6 級 宮崎小織(本部)

◆9 級 福田正人・保子圭・松木洋三・石川照人(上部)、石川瑚乃美(県警)



2019 年度強化選手指定者

平成30年12月に道場責任者会議を開催し、更に1月13日に開催された「第7回部内交流大会」の結果を勘案し、本年度の強化選手A及びBの選考を行い下記の通り決定した。

Aは新規に1人、継続9人と昨年と同じ10人が指定され、Bは新規に18人(Aからの降格1人を含む)、継続7人の合計25人となり、入賞の増加に伴い新たに多数の選手が指定された。なお、Bからは5人が降格となった。

なお、新たに今年度から「型部門」にAのみを強化指定することとなった。その条件は大洲少年大会、部内交流大会、他流派を含むその他の大会の上級の部で優勝を年間2回以上という厳しいものであったが3人が初の指定となった。

今回から型部門のA指定が始まったことから、組手・型両部門で菊川真莉沙(中3女子 今治)と福岡洸大(中2男子 本部)の2人がダブルAという快挙を成し遂げた。

強化選手A(組手)

志賀賢一(一般男子 西条 継続)、神原敏行(一般男子 今治 継続)、國本明佳(一般女子 今治 継続)、松井弥陸(高校1男子 今治 継続)、近藤さやの(高校1女子 本部 継続)、福岡洸大(中2男子 本部 新規)、北彩花(中2女子 今治 継続)、北光希(小5男子 今治 継続)、岡裕人(小3男子 本部 継続)

強化選手A(型)

菊川真莉沙(中3女子 今治)、福岡洸大(中2男子 本部)、寒作円(小5男子 本部)、池内琥星(小4男子 味酒)

強化選手B(組手)

村上哲也(一般男子 県警 新規)、曾我郁也(一般男子 今治 新規)、高橋みのり(高校2女子 上部 新規)、山下凌(中3男子 今治 継続)、神原雅斗(中2男子 今治 継続)、高瀬快(中1男子 西条 新規)、越智龍(小6男子 川東 新規)、越智和(小6男子 今治 継続)、黒田憲太郎(小6男子 味酒 新規)、小澤叶夢(小6男子 西条 新規)、高橋葵推(小6男子 上部 新規)、東悠樹(小5男子 本部 継続)、清水航一郎(小5男子 本部 継続)、福岡陽澄(小5男子 本部 継続)、中野結翔(小5男子 空港通り 新規)、池内琥星(小4男子 味酒 継続)、瀧田蓮(小4男子 川東 新規)、高瀬壮(小4男子 西条 新規)、高橋琉喜(小4男子 今治 降格)、黒田さくら(小3女子 味酒 新規)、福田心優(小3女子 上部 新規)、寒作心(小2男子 本部 新規)、高橋瑛徳(小2男子 本部 新規)、佐藤太緒(小2男子 西条 新規)、芥川團(小1男子 西条 新規)

◎強化選手A(組手)に指定される条件～グラチャン指定大会、もしくは極真会館が主催する指定大会で準優勝以上を年間2回以上入賞すること。(指定大会 大洲少年大会、桑島道場主催中四国交流大会、宗政道場主催広島交流試合)なお、一般部はこれ以外にウェイト制全日本大会、無差別全日本大会でベスト8以上の成績を上げることも含まれる。

(Aに指定された選手は合宿費及び極真会館主催大会出場料を全額支援、全日本大会の旅費の一部支援)

◎強化選手B(組手)に指定される条件～極真会館及び他流派主催の大会(初級は除く)で4位以上に入賞、又は部内交流大会、各大会の初級の部優勝のいずれかを組み合わせ、合わせて年間2回以上入賞。



〈寒作円選手〉



〈池内琥星選手〉

秋季合宿

平成30年10月27日(土)、28日(日)の二日間、国立青少年交流の家にて極真会館愛媛県戸田道場の秋季合宿を行いました。少年部から一般部まで120名の道場生が愛媛県内から集まりました。

今回の合宿は、空手の稽古に加え、もしもの時の応急手当・応急処置の対処方法等の講座を愛媛県消防極真空手道部の山下学(初段)と寒作典員(2段)が実施しました。

山下先輩は現役の救急救命士であり、AEDの使用法や応急の搬送方法をはじめ空手で負傷した際の有効な処置方法を学ぶ事ができました。

また、ウォークラリーも行い、道場生同士の交流が多くでき、極真会館愛媛県戸田道場の絆がより深まった合宿となりました。



〈山下学先輩〉



冬季合宿

平成31年2月23日（土）、24日（日）の二日間、えひめ青少年センターにて極真会館愛媛県戸田道場の冬季合宿を行いました。少年部から一般部まで126名の道場生が愛媛県内から集まりました。

今回の合宿は空手の稽古に加え、心の稽古「メンタルトレーニング講座」を保護者向講座と一般部・指導者向講座の計2回、Ashtar 代表 桐山奈穂先生を講師としてお迎えして実施しました。

極真空手の道場訓には「心身を錬磨し確固不拔の心技を極めること」と示されており、身体の鍛錬と同様に「心」の成長に重きを置いていることから、このような講座の機会を設けました。

合宿に保護者の方々が参加するというのは初の試みでしたが、たくさんの保護者の方々に参加していただきました。また、空手だけでなく子育てにも活かせる内容で、参加した保護者の方々からは多くの賛同を得ることができました。



(桐山奈穂先生)



寒 行

平成31年2月24日に、極真会館愛媛県戸田道場の寒行が北条の海岸にて行われました。今回の寒行には愛媛マンダリンパイレーツの4選手（林雄大投手、鳥丸陽平捕手、久木壮太選手、樋口公二選手）も参加しました。海岸までランニングを行った後、海に入り気合を入れた突きを行いました。参加した道場生は寒行の意味を理解し、「寒かったけど、頑張った」「良い稽古ができた」と話していました。また、愛媛マンダリンパイレーツの4選手は「寒行で精神力が鍛えられた。今シーズン良い結果が残せそうです。」との意思表示をしていました。



道場紹介（松山三津道場の巻）

松山三津道場は、2年前の平成29年4月に、三津内港にある大野開発様の倉庫を使用させていただき開設した、まだ歴史の浅い道場です。

道場生は、現在小学生と幼稚園児の10名足らずと少人数ではありますが、型の大会では、初級の部ながらも、優勝、準優勝などの入賞者を輩出しております。

戸田道場は、戸田師範が、極真空手を武道教育の一環として広げる目的で設立されたもので、麻雀日本一の先生と元警察官の先生とが、師範のお考えを継承すべく、空手の技だけでなく、感謝、尊敬、忍耐の押忍の精神と、礼儀作法を身に付けた人間形成を目指して、指導に当たっております。

道場生及び保護者の皆さんと一丸となって、空手も精神面も日々進歩していると実感できるよう、稽古をがんばっていきます。



〈烏谷伸先生〉

〈楠田正志師範代〉

栄えある入賞者（平成30年3月以降）

組織設立から8年目を迎えた現在、急激に各種大会での入賞者が増加してきた。

特徴的な点は、ここ数年来、今治道場が突出して入賞者を輩出してきたが松山地区、東予地区からも入賞者が増えてきており、今治道場の1強を脅かしてきたことである。

それは、全体での合同強化稽古の他、秋冬合宿、ユース合宿、各地区での合同強化稽古が着実に成果を生んできた結果であろう。

我々が目指すものは愛媛県、全日本、そして世界の頂点であり着実な実力を備えるために更に一丸となって精進すべきである。

（第6回愛媛県大会、第7回部内交流大会、第21回大洲少年大会は別途記事掲載、秋山道場主催の瀬戸内ジュニア大会は初心者向け大会のため未掲載）

○第24回全日本日本正統求道拳法桃花讃岐富士杯（3/18 坂出市 無門塾主催）

優勝 曾我郁弥（一般段外中量級 今治）、北彩花（小6女子上級 今治）、福岡洸大（小6男子中級 本部）、高橋琉喜（小2男子上級 今治） **準優勝** 近藤さやの（中学2女子本部）、北光希（小3男子上級 今治）、**第3位** 福岡陽澄（小3男子中級 本部）、東悠樹（小3男子中級 本部）、高橋瑛徳（年長 本部）

○第4回武煌会館大会（3/25 福山市 武煌会館主催）

優勝 神原雅斗（小6無差別初級 今治）

○第35回全四国大会（4/15 高知市 新極真三好道場主催）

第3位 芥川團（幼年新人 西条）

○第19回近県少年拳武道大会（4/22 西条市 拳武道会館主催）

準優勝 福岡洸大（中学男子軽量級 本部）、池内琥星（小3男子 味酒） **第3位** 高橋葵唯（小5男子 上部）

○第4回晴レノ國大会（4/15 岡山市 宮崎道場主催）

優勝 北光希（小5男子 今治）

○拳剛会館西日本大会（7/8 新居浜市 拳剛会館主催）

優勝 福田心優（小2女子 上部）、越智龍（小5男子中級 川東）、**準優勝** 芥川團（年長 西条）、村上哲也（一般新人70キロ未満 県警） **第3位** 高橋瑛徳（小1中級 本部）、東悠樹（小4男子中級 本部）、小沢叶夢（小5男子中級 西条）

○第23回香川県大会（8/12 高松市 極真会館桑島道場主催）

優勝 岡裕人（小2 本部）、北光希（小4男子 今治）、北彩花（中1女子 今治）、**準優勝** 志賀賢一（一般上級 西条）、松井弥陸（中2・3男子 今治）、**第3位** 寒作心（小1 本部）、高橋琉喜（小3 今治）、神原雅斗（中1男子 今治）、山下凌（中2・3男子 今治） **敢闘賞** 福岡陽澄（小4男子 本部）、越智和（小5男子 今治）

○第1回ジュニア新人育成四国大会（9/17 愛媛県武道館剣道場 悠心道場主催）

優勝 寒作心（小1ルーキー 本部）、佐藤太緒（小1ミドルファースト 西条）、黒田さくら（小2ミドルファースト 味酒）、小澤叶夢（小5男子ミドルファースト 西条）、高瀬快（小6男子ミドルファースト 西条）、福岡陽澄（小4男子ミドルセカンド 本部）

準優勝 芳野怜穂（小2チャレンジファースト 三津）、芥川團（年長ミドルファースト 西条）、福田心優（小2ミドルファースト 上部）、黒田憲太郎（小5男子ミドルファースト 味酒）、清水航一郎（小4男子ミドルセカンド 本部） **第3位** 岡田拓真（小1ルーキー 空港通り）、二宮悠翔（小4男子ルーキー 三津）、奥村悠央（小2チャレンジファースト 味酒）、正岡魁人（小2チャレンジファースト 味酒）、村上咲弥（小5女子チャレンジファースト 空港通り）、高瀬壮（小2セカンドチャレンジ 西条）、岩城斗也（小2

セカンドチャレンジ 西条)、伊藤銀河(小4男子セカンドチャレンジ 本部)池内琥星(小3男子ミドルセカンド 味酒)、寒作円(小4男子ミドルセカンド 本部)

○第5回四国中央空手大会 敬心杯(11/18 四国中央市 敬心館主催)

優勝 芥川團(幼年 西条)、高橋瑛徳(小1チャレンジ 本部)、岩城斗也(小2チャレンジ 西条)、瀧田蓮(小3男子チャレンジ 川東)、小澤叶夢(小5男子チャレンジ 西条)、福田心優(小2女子チャンピオン 上部) **準優勝** 佐藤大緒(小1チャレンジ 西条) 辻田琉紀(一般男子チャレンジ軽中量級 川東)

○第21回愛媛県少年大会・第20回四国一般新人戦(11/26 伊予市 正道会館四国本部主催) **優勝** 高橋瑛徳(小1チャンピオン 本部)、中野結翔(小4男子チャレンジ 空港通り)、黒田憲太郎(小5男子チャレンジ 味酒)、**準優勝** 岡裕人(小1チャンピオン9)、高橋みのり(一般女子 上部)、**第3位** 井口尊心(小2ルーキー ルーキー)、野怜穏(小2ルーキー 三津)、村上晴紀(小3ルーキー 本部)、宮野琉偉(小3ルーキー 今治)

○全四国空手道錬成大会(12/2 愛媛県武道館 新極真会三好道場主催)

型の部優勝 池内琥星(味酒)、**組手優勝** 佐藤太緒(小1新人 西条)、東悠樹(小4男子中級 本部)、小澤叶夢(小5男子中級 西条) **準優勝** 高橋琉喜(小3男子中級 今治)、北彩花(中1女子 今治) **第3位** 高瀬壮(小2中級 西条)、池内琥星(小3男子中級 味酒)、鷺有宥介(小5男子中級 西条)

○全中四国交流大会(12/2 高松市 極真会館桑島道場主催)

優勝 岩城斗也(小2初級 西条)、越智龍(小5男子中上級 川東)、福岡洸大(中1男子 本部) **準優勝** 瀧田蓮(小3中上級 川東) **第3位** 寒作心(小1 本部)、清水航一郎(小4男子中上級 本部)、越智和(小5男子中上級 今治)



○第2回琉道杯全日本交流大会(12/8 西宮市 琉道會館主催)

第3位 越智龍(小学5年上級 川東)

○第5回ローズカップ(1/27 福山市 志琉会主催)

準優勝 志賀賢一(一般男子上級 西条)、**第3位** 岩城斗也(小2男子上級選抜 西条) 小澤叶夢(小5男子上級選抜 西条)

○第3回極真空手広島親善交流試合(2/10 東広島市 極真会館宗政道場主催)

型の部 優勝 池内琥星(小1~3 味酒)、**準優勝** 芳野怜穏(小1~3 三津)、村上咲弥(小4~6 空港通り)、**組手の部 優勝** 芥川團(年長 西条)、岩城斗也(小2 西

条)、穂木竜之介(小4男子初級 川東)、越智龍(小5男子上級 川東) **準優勝** 中野結翔(小4男子上級 空港通り)、小澤叶夢(小5男子上級 西条) **第3位** 佐藤太緒(小1 西条)、寒作心(小1 本部) 特別賞 寒作円(小4男子上級)

○第8回絆杯大会(3/24 福山市 武煌会館主催)

優勝 國本明佳(一般女子 今治)、東悠樹(小4男子 本部)

○第25回全日本日本正統求道拳法桃花讃岐富士杯(3/31 坂出市 無門塾主催)

優勝 高橋みのり(高校女子中級 上部)、松井弥陸(中3男子上級 今治) 北彩花(中1女子上級 今治)、小澤叶夢(小5男子中級 西条)、高橋笑(小3女子初級 上部) **準優勝** 辻田道晴(壮年段外 川東) **第3位** 池内琥星(小3男子中級 味酒)、福田心優(小2女子初級 上部)、松井瞭誠(小6男子上級 今治)

○第20回近県少年拳武道大会(4/12 西条 拳武道会館主催)

優勝 高橋瑛徳(小2 本部)、池内琥星(小4男子 味酒)、松井瞭誠(中学男子軽量級 今治) **第3位** 小松陽翔(小4男子 味酒)、石川愛莉(小3・4女子 上部)、高橋葵唯(小6男子 上部)、福岡洸大(中学男子軽量級 本部)、高橋冬椰(中学重量級 上部)



○第36回全四国大会(4/12 高知市 新極真会三好道場主催)

第3位 國本明佳(一般女子 今治)

○第2回ジュニア新人育成四国大会(5/6 愛媛県武道館剣道場 悠心道場主催)

優勝 芥川團(小1男子チャレンジセカンド 西条)、田邊秀磨(小3男子ルーキー 上部)、山内焯河(小3男子チャレンジファースト 味酒)、竹田依緒莉(小3女子ルーキー 味酒)、黒田さくら(小3女子ミドルセカンド 味酒)、戎居虎太郎(小3男子ミドルセカンド 味酒)、池内琥星(小4男子ミドルセカンド 味酒)、清水航一郎(小5男子ミドルセカンド 本部)、黒田憲太郎(小6男子ミドルセカンド 味酒)

準優勝 岡田拓真(小2男子チャレンジファースト 空港通り)、井口尊心(小3男子チャレンジファースト 三津)、高橋愛葵(小3女子ルーキー 本部)、桧垣楓太(小5男子ルーキー 今治)、竹内佑生(小5男子チャレンジファースト 味酒)

第3位 伊藤源二(小2ルーキー 本部)、戸田悠仁(小2男子チャレンジファースト 空港通り)、芳野怜穏(小3男子チャレンジファースト 三津)、奥村悠央(小3男子チャレンジセカンド 味酒)、二宮悠翔(小5男子ルーキー 本部)



新たに3道場開設

平成30年4月に鷹子公民館で「鷹子道場」と内子町大型交番武道場で「内子交番空手教室」の2道場が新たに新設されました。

鷹子道場は藤本努先生(2段)が水曜日午後7時から、内子交番空手教室は大洲警察署道場責任者の山岡忠徳先生(2段)が金曜日午後7時から、それぞれ熱意をもって指導をしています。

鷹ノ子道場は松山市内で6番目、南部地区で初めての道場です。

又、内子交番空手教室には戸田師範が2週間に1度の割合で出向き指導を行っています。

更に、今年4月から松山市味生町の御産所集会所で「味生道場」が開設されました。

指導は三津道場責任者の楠田師範代(3段)と烏谷先生(2段)が行い、地元の要望で開設したという珍しい道場で、発足直後1ヶ月で5人が入門するという幸先の良いスタートをきりました。



合同強化稽古連続実施

この1年間の戸田道場の大会の成績は驚異的ですが、その理由は全体での、そして各地区での合同強化稽古の成果であることは明白です。

大会で勝利を得たい選手の必要条件は、苦しいけれど合同強化稽古に参加することしかありません。

平成30年5月以降は5月27日（日）に今治中央体育館で、8月19日（日）には悠心道場と福田道場と共に坊ちゃん球場スポーツフロアで、9月2日（日）と12月16日（日）に菊間町緑の公園体育館でそれぞれ合同強化稽古を行い、秋冬の合宿、ユース合宿を入れると2～3ヶ月に1回は実施しており、その他松山地区では週に1回戸田師範自らが指導する合同強化稽古を、また昨年末からは東予地区での合同強化稽古を行うなど勝利を目指して貪欲に合同稽古を行っています。



〈東予道場合同強化稽古〉

西日本豪雨災害大洲警察教室被害

平成30年7月8日に南予地方を襲った「西日本豪雨」で、大洲市も肱川が氾濫し多大な被害を受けました。この被害で、大洲警察署教室の道場生も5軒9名の自宅や車両が水没し、通常の生活ができなくなりました。

被害を聞きつけた戸田師範は、発生の2日後に水やカップ麺等の食料、そして義援金を1軒ずつまわり手渡ししました。また、戸田道場内に呼び掛けて寄付を募りました。

極真連合会の関西総本部、山形県田畑道場、広島県宗政道場や他流派からもたくさんの物資や義援金を頂きました。

苦しい時の支援は、本当に有難いものです。大洲警察署の道場生は、未だに2家族が仮設住宅で生活していますが、元気に空手の稽古に通っています。

今治市長に入賞結果報告

平成30年8月2日、今年6月に開催された「第23回全日本少年少女大会(グラチャン)」で準優勝した北光希(小4)選手、松井弥陸(中3)選手と同じく、第34回ウェイト制中量級で第4位に入賞した神原敏行先生、そして7月に開催された「第3回ジュニア世界大会」で準優勝した松井弥陸選手、第3位入賞の北彩花(中1)の今治道場生が、戸田師範と共に道場が所在する今治市の菅市長に表敬訪問しました。

市長も多くの入賞に喜んで下さいました。



「自閉症」前向き奮闘記

「迷ったら、一步大きく踏み込んで」。本部潮見道場の道場生である濱田晋太郎さんのお母さん、濱田斉子さんは昨年夏に「自閉症それがどうした」を自費出版しました。自閉症の症状に悩み葛藤しながらも、幼少の頃から現在の極真空手を修行する我が子を暖かく見守りながら、明るく前向きに奮闘してきた日々がつづられています。

本には戸田師範が晋太郎さんの空手修行の状況を記した部分も掲載されています。

晋太郎さんは、現在3級で休みなく真面目に稽古しており、黒帯取得も間違いないと思われます。



〈インターネットラジオに出演する濱田さんと晋太郎さん〉

愛媛県副知事に表敬訪問

平成30年7月にカザフスタンで開催された「第3回ジュニア世界空手道選手権大会」で第3位に入賞した北彩花(中1)選手は、結果報告ということで平成30年8月31日にお母さま、戸田師範、神原先生と一緒に原昌史副知事を表敬訪問しました。

原副知事からは色々と質問があり、北選手は次回のジュニア世界空手道選手権大会への抱負を語りました。



烏谷先生、またもや健康マージャンV

三津道場並びに味生道場の責任者である烏谷伸先生(2段)は、平成30年11月に富山県で開かれた、第31回全国健康福祉祭とやま大会(ねんりんピック富山2018)の健康マージャン交流大会の個人戦で見事優勝しました。

愛媛新聞の記事によりますと、「2日間の闘いの前日で良い成績が残せなかったことから、気持ちを切り替え、段位を持つ空手の鍛錬で培った集中力や冷静な判断で運を呼び寄せた。」と記されています。

マージャンの達人である烏谷先生の活躍が、これからも楽しみです。



〈笑顔の烏谷先生〉



〈愛媛新聞
掲載記事〉

北彩花選手愛媛県スポーツ協会の優秀スポーツ選手賞

平成31年2月27日、フルコンタクト空手界では初と思われる、愛媛県スポーツ協会(旧愛媛県体育協会)から、北彩花さん(今治道場)に優秀スポーツ選手賞が贈られました。

この賞は、北さんは障害があるにもかかわらず、ジュニア世界空手道選手権大会で第3位に入賞するなど、日頃の鍛錬を怠らずに活躍したことに対するものです。

表彰式にはお母さま、戸田師範も出席し、北さんの晴の舞台を見ることが出来ました。



第2回ユース選手合宿

平成31年4月6日(土)・7日(日)の2日間、松山市中野町の青少年ふれあいセンターにおいて、第2回目のユース合宿が行われました。

戸田師範、神原先生の指導の下、志賀先生などの一般部と小学4年生以上で大会指向の強い選手30人で行いました。

屋外でのダッシュ等の走り込みや階段昇りなど、日頃はあまりできない厳しい稽古もありましたが、参加者は頑張り通しました。

この経験を活かし、今年も大会で多くの入賞者ができることを期待しています。





「押忍」「OSU」「オス」と屈強な外国人がたくさん集まるホテル前の歩道では、極真空手特有の十字を切った挨拶が響き渡っております。初めて会う方ばかりですが、臆せず挨拶をして回る多くの外国人。世界18カ国、101名が参加して平成30年5月10日から14日まで行われた山形での国際セミナーの様子です。

戸田師範は初日から参加し長松寺での座禅や、蔵王での基本、移動、型そしてセミナー恒例となった上段廻し蹴り1000本を完遂いたしました。ここでも戸田師範は日本人参加者2名ということもあり、空手発祥の地の意地を見せ、外国人には気合では絶対に負けないという気持ちで臨んだということです。

そして私も参加した3日目は羽黒山での石段登り、羽黒山神社での祈祷、奉納演武、境内での型稽古を延々に行いました。5月とはいえ東北・山形の山裾には雪がたくさん残っております。その雪解け水が流れる川での川禊はとても厳粛で貴重な経験でした。とにか



く冷たいというより痛い感覚です。そんな中首までつかり大きな気合を入れ、克己の精神を涵養いたしました。



翌日はチャレンジカップ大会の審判お手伝いを戸田師範とともに行いました。国内の地方大会とはいえ、国際セミナーと日程が重なっているので外国人選手もたくさん出場しております。またセミナーに参加した各国の師範・先生方の審判技術向上のための実地研修も兼ねていました。試合に関しては、どの大会もそうですが以前ほど日本人と外国人の実力差はありません。むしろ空手を真摯に学び、武道精神を身に着けようと努力している外国人の礼儀正しさやひたむきさが目に付きました。

さて、私にとっては今回のセミナー参加の最大の目的である「国際昇段審査会」が最終日に行われました。6年前、戸田師範が五段に挑戦された地獄の昇段審査を目の当たりにして、自分ももっと鍛えて上を目指そうと決心し、戸田道場本部道場で三段を受審したのが5年前。それからわずか4年後に四段昇段審査の機会を与えて下さるとは思いもよりませんでした。一度はまだ早いと思いお断りいたしました。師範から再度お声掛けいただいた時には、やるしかないという気持ちに一気に切り替え、三段昇段審査では思うように動けなかった自分の欠点を克服しようと、空いた時間は空手の稽古や基礎体力作りに費やしました。

国際昇段審査ということもあり、ほとんどが外国人。各国を代表する師範方や選手たち

が審査に臨みました。基本も移動も普段の稽古の数倍の量を行います。ましては審査ということでまったく気が抜けません。型の審査のころには息遣いも荒くなり、身体が無意識に反応している感じでした。審査で一番の山場である体力審査（拳立・腹筋・スクワット・背筋それぞれ250回）は、この日のために地道に稽古してきたので何とか完遂できました。普段からの継続がとても大切です。そして最後の40人組手。成るようにしかありません。戸田師範から口酸っぱく教えてもらった脱力を意識しながら頑張りましたが、終盤太ももが痙攣。アドレナリンを目一杯出して何とか乗り切りました。5時間を超える審査終了後、審査員の師範方の協議を経て、田畑師範から「合格」の一言を告げられた時、すべてが終わった安堵感でこれまでの苦しみが吹っ飛びました。こんな私を審査に推薦して下さった戸田師範や、愛媛で応援して下さい道場生仲間たちに感謝の気持ちがふつふつとわいて目頭が熱くなりました。

全日程が終わり、セミナーに参加した世界各国の極真カラテ家と握手や抱擁を行い世界はひとつなのだと改めて感じました。大山総裁が常日頃おっしゃっていた極真カラテは世界平和に貢献する。日本の武道精神を学ばば学ぶほど争いはなくなる。本当にそうだと感じました。現代社会になくなりつつある家族の絆や道德心。そして他人や弱者への思いやり。かつて日本人が美德として大切にしてきたことを、世界中の極真カラテ家が実践し伝えてくれております。

田畑師範をはじめ七戸師範、高橋師範、三和師範からご指導いただいたことやお声掛けいただいた言葉が私の血となり肉となりました。そして今回のセミナー参加を許可、推薦して下さい戸田師範には本当に感謝の一言しかございません。戸田師範が隣にいただけで安心感と、戸田道場の名を汚すわけにはいけないという使命感に満たされておりました。いまや愛媛県戸田道場は日本国内にとどまらず世界中からも注目される道場となりました。このことをしっかり胸に刻んで修行に励み、少しでも社会に貢献していきたいと思っております。

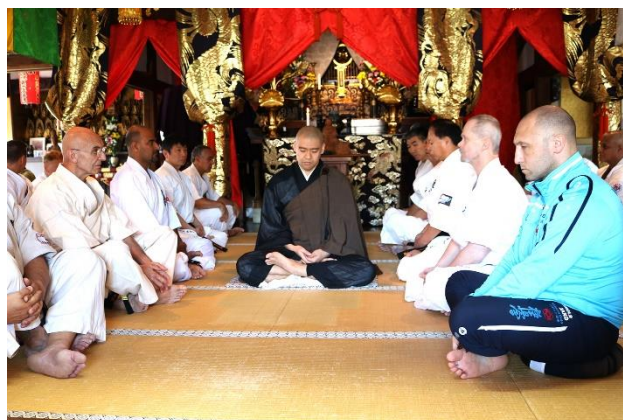


〈国際昇段審査に挑む濱井師範代（中央左）〉

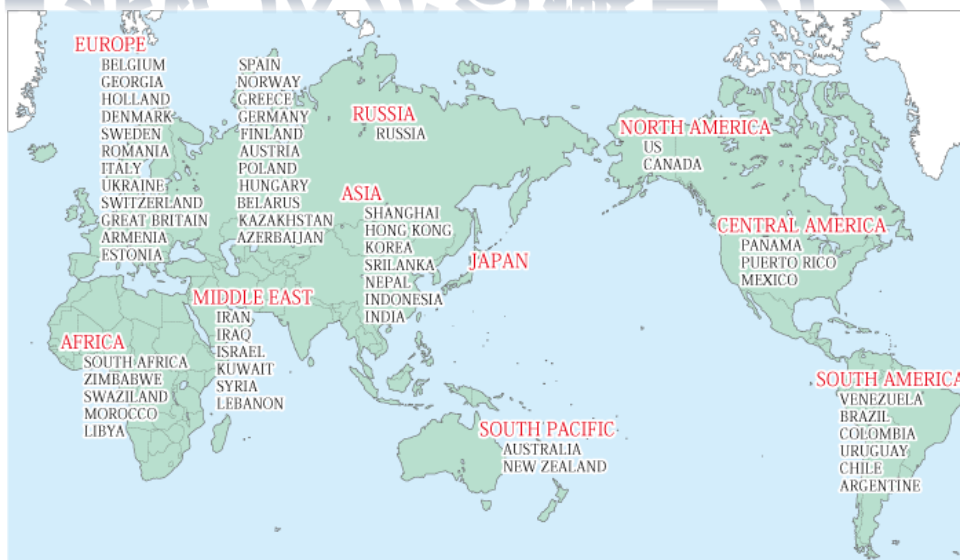
今回参加した国はスペイン、ドイツ、オランダ、ルーマニア、ベルギー、スウェーデン、ウクライナ、カナダ、ブラジル、チリ、パナマ、イラク、オーストラリア、南アフリカ、ロシア、カザフスタン、パキスタン、日本。人種、宗教、文化が全く違う国々ですが、極真カラテという絆で結ばれております。押忍。



〈世界各国の師範方と共に〉



世界に広がる極真カラテ





田畑繁師範（一般社団法人 極真会館 副理事長、現在八段、主席師範）

1960年に山形県酒田市に生まれる。1979年高校卒業とともに上京し、極真会館総本部大山倍達総裁の内弟子となる。応募者120名の中から12名に選ばれる。その想像以上の厳しさは筆舌し難く、3年間の修行で二人だけの卒寮となる。その後に東京本部正指導員4年を経て1985年に大山倍達総裁から「君、山形で極真空手を普及してくれたまえ」の一言で山形に支部を設立し、初代支部長となる。極真カラテの継承、伝承、普及、発展を旨に稽古指導を行っている。山形県内に26支部、会員3400人を擁する。日夜会員と共に汗を流し人間としての本当の生き方を求め、稽古修行をしている。（世界31ヶ国（36地区）で指導、指導回数63回）

2017年12月10日に田畑師範を愛媛県松山市にお招きして、セミナーを実施しました。この「大山総裁との思い出」は、セミナーの際に田畑師範から参加者に配布された資料です。

大山倍達総裁との思い出

（2017年12月10日 愛媛県松山セミナー記念）

私は1960年山形県酒田市に生まれ、1979年4月に大山総裁の内弟子になりました。当時は12名が入寮しましたが、3年後の卒寮は2名しか残ることはできませんでした。毎日大山総裁から、午前9：30～10：00まで30分の朝礼がありました。極真の理念、方向性、時事問題とあらゆることの薫陶を得ました。一番印象に残っているのは「覇気」「限界への挑戦」「親孝行」「礼節」「極真とは」というところでしょうか。他にもあるのですが、本日はこの5項目にします。

内弟子は内弟子ノートがあり、一日のことや思っていること、大山総裁教えて頂いた事などを書いて大山総裁に毎日提出します。そして「大山」という総裁の印を頂いたり、感想が書いてあるのですが、総裁が「いつか新極真会館を建てたら図書室を作り、そこに君達の日誌を置いておくよ。」とおっしゃっていましたが、この分裂騒ぎで3年間の内弟子ノートがどこにあるかわからなくなりました。しかしノートがなくても、毎日同じことを同じ時間に耳が痛くなるまで言われていますので、頭の中にしっかり入っています。その時の総裁とのお話をお伝えします。

1. 「覇気」

大山総裁は、覇気なかずんば立たずと言われ、亡くなる寸前まで男は「覇気」がなくてはならないと言われました。そして知識は物事を知る事に対して必要、見識はそのことを使命感まで高めること、そして胆識は実行してみて、結果を出して初めてそのことを本当に知るという「知行合一」であり、胆識はすなわち覇気がなくてはならないと。

では、その覇気はどこからくるかという、正義を守る、正しい道を歩く覚悟と、基本稽古でいうところの三合法からくるといいます。三合法は、技を打つとき①丹田（へそ下約10cm）②脇の下③当たる部分です。正拳なら手、もっとも大切なのは小指、この三点に力を結集して、気合を入れて打ち込むことだと言われています。丹田・脇の下・当たる部分（小指）、そして気合は当たる瞬間に力を入れること、これが三合法です。

鍛錬…鍛は千回、錬は万回。極真カラテは一つの技を十萬回反復すると言われているのは、このことを指しています。これくらい技を打てば覇気が湧いてくるという事です。覇気が強くなれば生命力が強くなります。そうすると徳性、個性、技能知能というものが最大限に発揮され、不可能なことも可能になると総裁に言われました。

2. 「限界への挑戦」

常に目標設定は高くおくこと、そして弛まぬ努力を実行していく、地道な稽古の積み重ね、一本一本の技

を磨き重ねていくしか強くなれる方方法ありません。「楽をして強くなれるのなら私にもその方法を教えてもらいたい。そんな方法はどこにも無い。」と総裁はおっしゃっていました。

一つの挑戦は、目標への挑戦。もう一つの挑戦は自分の限界への挑戦。一日一日一回一回の限界を乗り越えた先に本当の自分の力、潜在的力を発揮することが出来る、自分への挑戦がいつか目標、夢、理想に近づき今は出来なくても、半年後、一年後に出来る可能性がある。自分の無限なる可能性を信じて努力を惜しまないことが大切なことだといえます。

3. 「親孝行の拳」

大山総裁曰く「特にお母さんは大切に下さい。両親がいなくとも、それに代わる大は必ずおるものだ。その大を大切にすることも親孝行の道。親は子が生まれてくれれば五体無事で生まれてくれと祈る。子が病気になれば、自分の命を差し出しても子を守ってくれと神に頼む。学校に進めば、勉強が出来るか、友達が出来るか、いじめられないかと心配する。就職すれば、ちゃんと仕事ができるのかと心配し、家庭を持てば幸せな家庭生活を祈る。なのに親には報酬はない。見返りなど要求せず親は子を愛す。子はその愛を感じる事ができる感性がなければいけない。親の恩を知り、思いに報いる。このことが子としての人道である。親孝行できないものは、ろくな人間にならない。親孝行ができ、先生や先輩や仲間、後輩を大切にする、そして職場や社会においても大は和を大切にする大は、いずれ世の為人の為、日本の為に役立つことができる。その根底にあるのが親孝行だ。」

朝礼で親孝行のお話をしている時、時折大山総裁が感極まって目頭を熱くすることもありました。大山総裁が若い時に、自身が偉くなった時には母に会える、早く偉くなって母に会いたいと思っていたことを話された時があります。後に大山夫人から聞いたのですが「パパも偉くなったんじゃない。お母さんに会えますよ。」と言うと「まだ偉くなってないんだよ。」と。その当時の大山総裁の心境はいくばかりか。

4. 「礼節」

大山総裁曰く「君たち内弟子は海外に行って礼節の使者になりなさい。東洋思想の中に日本精神があり、日本精神の中に武士道精神があり、極真精神があるのだ。礼節の大切さを世界の大に伝えなさい。この極真精神とは、「克己復礼」礼節の道を守るといふことだ。空手は強くならなくてはならない。しかし、強いだけでもダメだ。礼儀正しく思いやりの心とやさしい心がなければいけない。自分に厳しく大にやさしい心がなくてはならない。礼節を守るのが人の道、人の道は天の道。だから礼節を守り、人道・天道に従わなければいけない。」

内弟子の時に一度、大山総裁からメキシコに行くように言われました。私は「もっと稽古をしたいので行きません。」とお断りをしました。大山総裁は沸騰したやかんのごとく真っ赤になって怒られたことを覚えています。それから35年の年月が経ち、初めて今年8月にメキシコセミナーに行きました。とても感無量のところがありました。この話をメキシコ人に話すと、「改めてよく来てくれました。ありがとう。」と言われました。

大山総裁は内弟子に、極真カラテの普及と発展と人間が生きる上で一番大切な礼節を伝えることを、私たちに託したのでした。

5. 「極真とは」この終わりなき極真の道

「技を極め、体力を極め、精神を極める。しかし自分を極めることを忘れてはいけない。」

38年前に総裁から頂いたお言葉です。以来胸に刻んで38年間毎日稽古と稽古指導に明け暮れました。今年の1月23日の沖縄国際昇段審査会の八十人組手で、その自分を極めることをかいま見た思いがしました。「無心」あるいは「無念無想」とはどういうことかを瞬間的に体験しました。人生の中でとても大切に貴重な体験でした。

「極真とは」についての5つの定説

極真は真を極めると書きます。

- 1) 真は千日で初心、極むは万日三十年満願という説。千日は内弟子の寮生の満期の日数です。この初心が終わり、初めて極真カラテ人生のスタートラインに立つことができるのです。満願を目指して歩むことが極真への道です。
- 2) 人間として正しいことを知り、正しいことを正しく貫くこと。
- 3) 人生の真理を悟る。
自分の運命・使命を知り、「知命」運命を確立していく「立命」。
- 4) 自己の本質を知り、本源・根源の力を発揮させること。

若い時には、肉体、体力、技というものをどんどん身に付けていきますが、ある程度の中から、自己の本質は何かということを知り、肉体や技や精神というものをそぎ落とし、自分の本源・根源の力というものに目覚めていくこと。


- 5)「厳しい空手の修行を通じて人生の真理を知り、死生を乗り越え、真に自由な境地に立ち、その上で正義を守り、人のために世のため尽くすことである。」これは秘伝極真空手にあった言葉だったと思います。

このように書き記すことによって、まだまだ大山総裁のお言葉と思い出が噴き出してきますが、あの若い私たちに対して、大山総裁は人間の完成として武士の道があり、それが極真の道だと教えてくださったのだと思いました。黒帯研究会でこんなことがありました。「君の基本、移動、型はそれでも良いだろう。しかし君の後輩（弟子）はどうなるんだ。正しい継承はできないんじゃないか。伐流、垂流を教えられた後輩（弟子）はかわいそうだよ。」と総裁がおっしゃいました。

極真の継承伝承には、三宝があります。一つ目は極真の理念、精神法です。二つ目は稽古法です。三つ目は礼法作法です。この三つを指して三宝と私は名づけています。このことを普及発展させていかなくてはなりません。戸田師範が言われているように、今本当に大山総裁の極真カラテを継承伝承している派閥はいくつあるのでしょうか。なかには組手のルールが変わったり、同じ極真なのに大山総裁の理論とは違った主義主張があります。ある海外の先生は、技の効率だけを言う人もいます。「守破離」というものもありますが、私の場合発展性は少ないと思いますが、「守」にこだわり、総裁の空手を継承伝承し生涯を終えたいと考えています。

海外ではこれまで60回セミナーに出て、総裁の空手を継承伝承、普及発展していますが、このように日本国内でセミナーが出来ることは稀なので、戸田師範には深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。

戸田道場 今後の主な行事予定

行事予定表			
月	日(曜日)	行事内容	場所・会場等
6	16(日)	昇級審査	砥部町陶街道ゆとり公園武道場
6	22・23 (土・日)	第24回全日本少年少女空手道選手権大会～グランドチャンピオン決定戦 第35回全日本ウエイト制空手道選手権大会(極真会館関西総本部主催)	大阪府立体育館(エディオンアリーナ)
7	21(日)	第8回極真会館愛媛県戸田道場交流大会	砥部町陶街道ゆとり公園武道場
8	18(日)	第24回香川県空手道選手権大会(極真会館桑島道場主催)	高松市香川総合体育館
10	6(日)	2019極真カラテ ワールドカップ 	ロシア連邦 モスクワ
11	7(日)	第7回オープントーナメント愛媛県空手道選手権大会	愛媛県武道館主道場